

生徒の主体性を育む集団行動の取り組み

高等部 竹島 章太

1 はじめに

本校の研究テーマは「主体性を引き出す授業づくり」である。本稿では高等部1年生を対象に行った保健体育の研究授業、体づくり運動「集団行動」においての内容をまとめる。

「集団行動」は保健体育の授業内に限らず、学校生活を送るうえで必要不可欠な「集団で行動する力を身につける」ことのできる題材である。特に1年生のうちに学校でのルールを理解し、集団で活動する機会に慣れることは重要である。保健体育の中でも、生徒が受動的になりがちな「集団行動」という単元において、いかに生徒が主体的に活動できる環境をつくることができるかを実践すべく、本単元を設定する。また、授業後の研究協議にて多くの教員と、支援学校における集団行動の必要性や、より良い指導法を共有し合いたい。

2 授業の概要

- 1) 対象生徒 高等部第1学年(48名)
- 2) 授業名 体づくり運動「集団行動」
- 3) 日時 令和3年5月20日(木)第2時限(9:35~10:15)

3 授業のねらい

1) 対象生徒の実態と課題

本学年には男子34名、女子14名、計48名の生徒が在籍しており、A班からF班までの学習班がある。それぞれに体を動かすことが好きな生徒、体育授業に苦手意識を抱く生徒と様々である。現在の体育授業は運動能力を把握する段階であり、グループには分かれず学年全体で活動している。

本単元は集団で活動する様子を観察することで生徒それぞれの特性を理解することができる題材でもある。生徒の中には小学校や中学校でのこれまでの経験から、体を動かすことや保健体育の授業に苦手意識を抱いている生徒が多くいる。そのようなマイナスイメージを払拭させるためにも、体を動かすこと、保健体育の授業が楽しいと感じさせることも併せて必要である。

2) 本授業でのねらい

集団行動の中に競争や協力する機会を取り入れ、楽しさを感じると共に協力することの大切さやチームワークの重要性を実感できる活動をさせたい。また、生徒同士がコミュニケーションをとる機会を設けることで他者を理解し、自分のことだけでなく仲間を支援する力や、教え合い、助け合いを通してコミュニケーション能力の向上に繋がる授業を展開したい。

3) 各班の実態

AB班：集団に対する指示理解が難しく、個別の指示・支援の必要な生徒が在籍する。

CD班：集団の中での説明を理解することが難しい生徒が在籍する。

競争意欲が高く、リーダーシップを発揮することのできる生徒が在籍する。

EF 班：集団の中で説明を理解して行動できる生徒が多いく在籍する
 理解力は高いが積極的に行動することが難しい生徒が在籍する。

4) 授業の目標

単元目標

- ・ 集団行動の基本的な技術を習得することができる。「A 知識・技能」
- ・ 自分の役割を理解して行動することができる。「B 思考・判断・表現」
- ・ 集団行動を通して他者への理解を深めることができる。「C 主体的に学習に取り組む態度」

本時の目標

- ・ 指導者の指示を聞いて理解しようとする。「B①」
- ・ 課題を達成するために仲間とコミュニケーションをとることができる。「C①」

5) 授業の評価規準

A 知識・技能	B 思考・判断・表現	C 主体的に学習に取り組む態度
①集団行動における基本的な動き (気を付け、前へならえ、右向け 右、回れ右等)を理解し、行うこ とができる。 ②ルールや約束事を理解している。	①状況に応じて自分がす るべきことを理解し、行 動に移すことができる。 ②自分の活動に自信をも って表現することがで きる。	①必要に応じてコミュニケーショ ンを取り、仲間と協力して取り 組むことができる。 ②説明をよく聞いて興味・関心を もつことができる。

本時の評価規準

- ・ 目的を理解し、間違えることなく行動することができたか。「B①」
- ・ 自分のことだけでなく周囲に気を配ることができたか。「C①」

4 授業の内容と経過

本時の学習過程

時 間	学習内容・学習活動	指導上の留意点及び支援の手だて等
導 入 12 分	○集合、点呼 ○整列 ○あいさつ ○健康観察 ○本時の確認 ○準備体操 ・ラジオ体操 ・補強体操	○開始時間までに集合して服装を整えるよう促し、体育委員へ点呼をとり 報告するよう伝える。 ○体育委員が基準となり、前後左右を揃えて整列できるよう促す。 ○体育委員の号令で脱帽、あいさつができるよう促す。 ○体調不良・見学の生徒の確認及び、体調不良時の対応について伝える。 ○本時の流れ（各活動の詳細については都度）を伝える。 ○前で手本を示しながら必要に応じて各動きについての言葉かけをする。 補助が必要な生徒には T.T の指導者がつくようにする。

	<p>・補強トレーニング</p> <p>○集合・整列</p>	<p>○素早く移動し、整列ができるよう促す。</p>
<p>展 開 25 分</p>	<p>○これまでの振り返り</p> <p>・右向け右・左向け左</p> <p>・回れ右</p> <p>○ランニングの説明</p> <p>○集団行動を交えたランニングをする。</p> <p>○クラス対抗整列(並び替え)の説明</p> <p>○クラス対抗整列(並び替え)</p> <p>・名前順 ・誕生日順</p> <p>・背の順</p>	<p>○左右の確認をしてから行うようにする。</p> <p>○ランニング中に笛の音で指導者の元への集合・整列を繰り返すこと、クラス対抗で競うことを伝える。</p> <p>○場所や角度を変えて集合・整列ができるようにする。体育委員が基準となり、周囲の安全に留意して取り組めるよう促す。都度結果発表を行う。整列順の他に、チームワーク賞(いかにクラス内で助け合っているか)も発表する。</p> <p>○クラス内でお題に応じて並び替える速さを競うことを伝える。難しい場合はT.Tの指導者に相談するよう促す。</p> <p>○結果を発表する。(チームワーク賞含む)好評については各クラス担当のT.Tが判断できるようにする。</p>
<p>ま と め 3分</p>	<p>○集合、整列</p> <p>○本時の振り返り</p>	<p>○体育委員を先頭に、元の隊形に集合し直せるよう促す。</p> <p>○本時のよかった点を挙げ、達成感を得ることができるようにする。</p>

5 結果

1) 生徒の様子

本時で行った集団行動を交えたランニング、クラス対抗整列(並び替え)は初めて行うものであった。これまでの集団行動の授業では常に遊び要素があったことで、生徒たちが集団行動に対して負のイメージがないことから説明を理解しようとする気持ちが強く、各活動に対して高い意欲で取り組んでいた。特にクラス対抗整列(並び替え)では、生徒同士が誕生日を教え合う、背を比べ合うことで自主的にコミュニケーションを取り、自ずとリーダーシップを発揮する生徒が現れた。主観的ではあるが集団行動の授業を行ったことで、授業中だけでなく授業の前後で授業について話し合う生徒が多く見られるようになった。特にクラス内での結束が増し、積極的に助け合う場面が多く見られるようになった。

2) 授業を参観した教員による研究協議での意見まとめ

- ・集団行動にゲーム形式を取り入れることで子どもたちが楽しく取り組んでいた。
- ・本来生徒が楽しいと思えば集団行動の授業に工夫を加えることで、子どもたちが「またしたい」と思えるような授業展開であった。(複数)
- ・授業中に最前列の生徒が大きな発作を起こした際に、すぐに「全体回れ右」の号令で方向を変えられたことで、サブの教員が発作の対応をしやすく機転を利かせていた。
- ・集団行動の動作一つひとつに時間をかけて取り組むことで、少しずつ生徒が理解し、回数を重ねる毎に嫌になるどころか意欲的に取り組めるようになった。

- ・全体が楽しく取り組んでいる雰囲気から、重度の生徒たちも楽しんでいる様子が見られた。
- ・授業の目的などが自然とサブの教員にも伝わり、サブの教員も含めてみんなのできる授業になっていた。高校生である以上、障がいの程度に関わらず可能な限り同性での介助をするのが望ましいと思う。
- ・参観するのとサブで授業に入っている時とでは違うことに気付けた。指導観通り楽しい雰囲気づくりがなされていた。生徒と距離の開く舞台の上ではマスクを外して顔を見せて言葉かけしているのが印象的であった。絵や文字での視覚支援を取り入れるのも効果的であるのでは、と感じた。
- ・まず何より楽しそうな授業であり、教員全員がチームとして動いていると感じた。
- ・生徒全員（全クラス）が1度は1位になることができるように展開されており、全員が達成感を味わうことができていたと思う。
- ・中学部とはまた違った雰囲気で、子どもたちが楽しそうに取り組んでいた。（複数）
- ・ラジオ体操で音源の声に頼らず、具体的な動作や方向の指示がなされていてわかりやすかった。
- ・コロナ禍でコミュニケーションを取り合うのも難しい状況であるため工夫が必要だと感じた。
- ・センスを感じられる授業であった。向き（左右）の指示が具体的でわかりやすく、笛の音を使い分けているのが印象的であった。
- ・この授業では競争や協力を重点に置いていると思われるが、楽しいことが目標になってはならない中で、手段として楽しいことを選ぶことができていた。
- ・ランニングをゲーム形式にすることで止まる機会が増え、運動量が減る可能性はあるが、この授業の目的は運動量ではないため問題ではない。
- ・多くの生徒が褒められる授業であった。改善点を挙げるのであれば生徒同士の掛け合いや言葉が埋もれていること、自分たちで考える場面を増やすことができればなお良い。また、整列する意図や整列するメリットをわかりやすく伝えることも大事である。
- ・サブの教員の役割が明確になっていた。競争の際にはその都度順位を掲示するなどしてわかりやすくし、総合優勝などを設定するのも良いのではないかと。

6 考察

入学当初の生徒たちに「集団行動」の授業を通して授業のルールや学校のルール、学校生活を送る上で必要な集団で行動する力やその必要性を理解させることは非常に大事であることを改めて感じることができた。また、毎授業で遊びや競争のアイスブレイクを取り入れることで、生徒が楽しく授業に取り組めることができ、結果として生徒同士が友だち関係を築くことに時間がかからなかったように思う。また、適度な競争意識を持てる設定があったことで、生徒の主体性を引き出したのではないかと考える。「集団行動」を通して学んだことを、保健体育の授業内に限らず学校生活全体で継続できるよう学年として指導していきたい。

今後も保健体育の授業を通して技術や知識の習得だけでなく、体を動かす楽しさや喜び、仲間と協力する大切さや助け合える力が養えるような授業づくりを行うべく、サブの教員と連携を取り合いながら生徒に合わせた目標設定、授業内容を展開できるよう尽力したい。